

## 「広域連携による環境教育プログラム策定事業」 3年間の活動報告

地球環境基金の助成により、3年間実施しました「広域連携による環境教育プログラム策定事業」終了に当たり以下の通りご報告申し上げます。

3年間の活動報告は別紙「自己評価シート 3年間のまとめ」及びホームページ <http://www.akagicge-shizen.com/> 活動報告2007, 2008, 2009に示すとおりですが、特記すべき事項として下記します。

### 初年度

- ・前橋教育委員会も臨海学校、林間学校の見直しを考えている。今後は連携して、小学校の郊外学習に的を絞った環境教育プログラムと実践のモデル作りを行っていく。
- ・本年度の活動から指導者養成が大きな課題としてクローズアップされた。来年度は指導者養成研修に力をいれる。
- ・企業・団体のCSR活動として認知されつつある。来年度は企業・団体等へ実績・計画の周知の下、財源協力活動をしていく。
- ・子どもたちへのプログラム実践から地域の自然環境保護の認識につながり、松枯れ等の地域の課題を教材にしたプログラムの実践から、広く環境問題の認識が進んだ。
- ・水源の森づくりが始まり、下流域の市民の参加が得られた。

### 第2年度

- ・今年度の目標は指導者養成に重点をおき、実践しながらその実績を踏まえ、環境教育指導者養成に取り組んできたが、指導者確保の道筋が見えてきた。
- ・シブヤ大学の一行と一緒に水源の森づくりに取り組んだことから都会の市民と協働してゆたかな広葉樹の森が赤城地域に創られていく事になる。このことで行政を始め地元の理解が進み課題解決に繋がる
- ・赤城地域7自治体の教育委員会の後援が得られた。また赤城を取り巻く自治体はもう一市、沼田市があるが、今後は沼田市も後援協力が得られることとなった。
- ・本年度の活動から指導者養成やプログラムの実践から教育現場の教職員に環境教育の理解者を増やしていくことが課題としてクローズアップされ、来年度はプログラム策定にいかにか協力いただくか、またその実践にいかにか協力を引き出すかが課題。
- ・小学生を中心に、幼稚園年長園児～高校生まで発達段階毎にプログラムの実践検証を実施し、プログラムの作成に役立った。
- ・松枯れ林地再生プロジェクトとして、初年度の炭窯づくりから参加したシブヤ大学と地元参加者による水源の森づくりの今後の継続発展が確認できた。
- ・国内先駆者の指導による発表会や講習会及びアンケート調査がプログラムのブラッシュアップにつながった。
- ・HP 公開により3年間の活動報告やプログラム&団体・施設紹介等による現場教師への情報提供と受発信が可能になり、情報共有により、より効果的な環境教育プログラム実践に役立つ。
- ・環境教育に資する資源調査や活動報告会をとおして赤城自然塾メンバー111の団体・個人と連携がとれて

おり、環境教育プログラム実践に協力が得られる。

<助成終了後のプロジェクト・組織の展開について>

- ・ 赤城クリーン・グリーン・エコネットワークを母体にして「自然の仕組みがわかり、日常生活に活かせる“人づくり”」を目的にした赤城自然塾が発足した。
- ・ 策定したプログラムの実践とそのブラッシュアップおよび指導者養成は赤城自然塾が引き継ぎ、実施していく。
- ・ ホームページによる情報発信は今後赤城自然塾が引き継ぎ、実施していく。

### 第3年度

- ・ 水源の森エコツアーの継続によりシブヤ大学や新宿環境活動ネットとの連携・協力関係が確立した。
- ・ 活動に対する協力に関し、CSR活動としての認知が企業・団体で進み、施設、人材、財政面での協力が得られていく。
- ・ 前橋市を中心にした教育委員会との連携協力関係が進み、臨海学校に替わるプログラムとしての位置づけがされていく。
- ・ 課題解決型松枯れ林地再生プロジェクト水源の森づくり事業は赤城 CGE の継続事業として実施していく。

課題：プログラムの公開・周知により実践の機会が多くなる事が予想されるが、指導者スタッフの確保が心配される。

現場の教師を中心とした環境教育指導者養成が課題である。

プログラムが、各教科の授業として展開され実授業時数にカウントされていくかどうかは課題である。(学校内で教師の時間的なゆとりが生まれると思われる。)

自然の仕組みがわかり、日常生活に活かせる

“人づくり”の大切さを教育現場に訴え、プログラムの活用頻度とHPへのアクセスカウントのUPを目指した仕掛けが課題である。

今後の展望：赤城を中心にした自治体教育委員会官下の小中学校を主体に、環境モデル校を選定し、策定したプログラムの実践を赤城自然塾として実施していく。

ESD/持続可能な発展のための教育 の群馬県下での普及啓発を行い、環境に配慮した行動原理を備えた人材育成を行っていく。

助成事業により得られた50件の環境教育プログラムとガイドおよび ホームページ

URL・<http://www.akagicge-shizen.com/> は多くの方に評価され活用が始まっていることを申し添えます。